

はじめに

2003年度岐阜経済大学地域経済研究所の調査研究活動などの事業成果をまとめた『地域経済』第23集を発行します。

本研究所は今年度、共同研究、公開講演会、調査見学会、『地域経済』の発行を中心とした活動を実施しました。

共同研究については、「地域経済の活性化と中小商工業政策」（2002年4月1日から2004年3月31日）のプロジェクトが2年目の調査研究、および「市町村合併の地域福祉への影響（2003年4月1日から2004年3月31日）のプロジェクトを実施しました。

また、広島県高宮町の川根振興協議会会長の辻駒健二氏をお迎えし、「市町村合併と自律型コミュニティ」と題して公開講演会を開催しました。市町村合併の動きが広がるなかで、「地域で働き続けられる仕組みを作りたい」との思いで取り組まれている「小さな自治」の試みを紹介していただき、講演後の参加者との交流にも話が弾みました。

調査見学として、岐阜県西濃地域の「校舎のない学校」で体験学習を中心とした調査見学会を実施しました。目隠しをしての車椅子試乗体験、グループホームでの楽しいひと時、意見交換会など貴重な体験をしました。

なお、過去4年間実施してきた「市民ゼミナール」は諸般の事情で今年度は見送りとなりました。

こうした本研究所の研究成果の一部を『地域経済』第23集に掲載します。近江商人の経営、産業集積などの論稿、本年度の共同研究プロジェクト報告、公開講演会記録など多岐にわたっています。

また、本学大学院生の意欲的な論稿も掲載され、『地域経済』に新たな息吹を吹き込んでいます。

2004年3月

岐阜経済大学
地域経済研究所所長
野松 敏雄